

育児ガイド1 - 駄々をこねるうちの子

わがママを言って寝転がるのは当たり前、駄々をこねる我が子に、つい忍耐の限界を感じてしまうことはありませんか？ 子どもは駄々をこねることで、自分中心の気持ちや考えを言葉や行動で表そうとします。この駄々こねを減らすためには、まず親との安定した愛着関係が土台になることが大切です。では、どこまで受け止め、どこからはきっぱりと対応すべきなのでしょう？ ここでは、子どもが駄々をこねる理由と、その効果的な対応方法をご紹介します。

駄々をこねる行動、何故起こるのでしょうか？

怒りは私の力 存在を示すサイン



子どもの「駄々をこねる」行動の背景には、怒りという感情があります。怒りには、ぐずりや不満から激しい怒りや興奮状態まで、さまざまな段階があります。では、なぜ子どもはこんなにも怒るのでしょうか。それは、目標を達成しようとする本能とも言えます。怒りは、何らかの欲求や目標の達成を妨げられたときに主に表れます。

駄々やわがママは、たいてい3~4歳頃に最も激しくなります。しかし、子どもの「イヤ！」は一種の独立宣言であることを覚えておきましょう。親の助けなしに自分の足で歩き、体を思い通りに動かせるという自は、やがて自立心につながります。駄々をこねる心理の奥には怒りがあり、そのさらに下には挫折感が隠れています。もし子どもが自然な発達の過程で、こだわりや駄々の時期に入ったのなら、ある程度は子どもの自主性を尊重することも大切です。危険なことではなければ、一人でやらせてみましょう。失敗を経験しながら、心はよりたくましくなり、自尊心も育まれます。



駄々をこねるのは 自我が育っているサイン

どうしつければいいのでしょうか？

● 子供の行動を制限しすぎてはいませんか？

まず、自分が子どもの行動を過度に制限していないか振り返ってみましょう。親の子育て方針や基準は尊重されるべきですが、同じ状況をほかの親はどう捉えているのか、一度視野を広げてみることも大切です。特に自分が過敏に制限している行動をリスト化してみると、柔軟に対応できるようになり、子どもとの衝突も減らすことが

● 扱いやすいものから試してみましょう

子どもが駄々をこねる状況を書き出し、その中で最も対処しやすいものから難しいものまで点数をつけてみてください。このように段階ごとに解決方法を書き出しておくと、より効果的に対応できます。

● 何より大切なのは一貫性です

しつけにおいて最も重要なのは一貫性ですが、分かっているでも守るのが難しいものです。しつけがうまくいかなかったときは、最初からやり直すつもりで、忍耐強く段階を踏んで少しずつ取り組むことが大切です。